心のバリアフリーについて学ぼう＋バリアとは何だろう？

～企業・地域等での研修・勉強会を想定したシナリオ～

所要時間90分（イントロダクションと３つのテーマでディスカッション＋グループ発表）

* + 規模：20～24人程度（１グループ5～6人程度×４グループ）
    - 短い時間でディスカッションを効果的に行えるよう、各グループにファシリテーターを配置することを推奨します。難しい場合は、各グループごとに受講者から進行役を決めておくと議論を円滑に進めやすくなります。
  + 必要な備品：A2サイズの白紙を４枚、サインペン（黒・赤各１本）、筆記具及び75×75mmの付箋パッド（人数分）
  + 配付資料　：１．進行表

1. グループディスカッションの進め方

　　　　　　３．アニメーション教材のURL案内

　　　　　　４．手話解説イメージ

（動画：「コミュニケーションの取り方がわからないときは」利用時に使用）

資料は内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部WEBよりダウンロード下さい

　　（http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020\_suishin\_honbu/udsuisin/program.html）

※　90分のイメージでシナリオを構成していますが、状況に応じて、ディスカッション時間や取り上げるテーマ数を調整してください。取り上げられなかったテーマについては、事後のセルフワークで視聴いただくよう、ご案内ください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 分:秒 | 内容 | 進行 |
| ～  02:00 | 開会  あいさつ | 開会あいさつ  冒頭に、研修・勉強会の趣旨等を紹介 |
| 02:00  ～14:00 | オリンピック・パラリンピックのレガシー（遺産）  64年東京大会のレガシー  2020年東京大会のレガシー  2020年東京大会のレガシーは共生社会  取組のカギは、「心のバリアフリー」  進め方  グループメンバーの自己紹介（７分） | 本日は、内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局が作成したプログラムを使いながら、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会をきっかけに、皆さんと一緒に実現していきたいことについて、考えてみたいと思います。  初めに、研修プログラムのねらいのご紹介も兼ねて、政府が目指している2020年東京大会のレガシーについて、少しご紹介したいと思います。  皆さんご存知の1964年東京大会は、単なるスポーツイベントではなく、その後の日本の基盤となる、様々なものをのこしたオリンピック・パラリンピックでした。  代表格は「新幹線」開業で、東京を走る「首都高速道路」もこのころ、開通しました。このほか、ゴミのないきれいな町も、海外のお客様をお迎えするために実現したものと言われています。  また、頑張れば世界と肩を並べることができるという自信を持つきかっけとなって、日本人の気持ちに、高度経済成長への弾みをつけました。物心両面から大きく日本を変えたのが1964年東京大会でした。  2020年東京大会でも、同じように、これからの日本の基盤となるレガシーを遺せるといいですよね。では、そのレガシーとして、具体的に何をのこしていけばよいでしょうか？  これからの日本をみてみましょう。  日本は世界に先駆けて超高齢社会になっています。今でも人口の4人に1人が65歳以上の人たちですが、2030年には2.5人に1人になる見込みです。  また外国人観光客を見てみると、オリンピック・パラリンピックの招致が決まった2013年には年間1036万人でしたが、国は、2020年には4000万人、2030年には6000万人の外国人観光客の受け入れを目指しています。人口の半分という規模です。  年を取れば、目が見えにくい、耳が聞こえにくいなどの困りごとが増えてきますし、外国人観光客は日本語がよく分からない人も多いでしょう。  これからの日本では、多様な特性を持った人が大多数となって、これまでの「当たり前」を前提にした街づくりや人付き合いではうまくいかない場面が増えていくことが見越されています。  そこで、国では、2020年東京大会をきっかけに、高齢者も若者も、障害のある人もない人も、言葉や文化の違いも関係なく、すべての人がお互いを尊重し合い、共に生きる社会を実現することを目標に掲げ、これを2020年東京大会のレガシーと位置付けています。  今日は、このレガシーを実現するカギとなる「心のバリアフリー」について、皆さんと考えていきたいと思います。  今日のプログラムですが、お手元の進行表にもあるように、アニメーションをご覧いただきながらディスカッションを進めて、最後にグループ発表の流れにしたいと思います。※配付資料１：進行表を配布しておく。  それでは、まずグループメンバーの自己紹介を行いたいと思います。グループ全体で７分ほどでお願いします。  また、自己紹介に合せて、最後のグループ発表で発表をしていただける方についても、決めていただきたいと思います。  それではどうぞ。  皆さん、時間になりました。グループの雰囲気もほぐれてきましたね。発表者は決まりましたか？  発表者の方は手を挙げてください。  最後に３分ずつ、グループでの議論を紹介いただきたいと思いますので、よろしくお願いします。  それでは、早速、最初のアニメーション、心のバリアフリーについて学ぼう～メッセージ編～をご覧いただきましょう。  ディスカッションのテーマは、「動画から気づいたことや、印象に残ったこと」についてです。  お一人ずつ付箋を配っていますので、気付きや印象に残ったことがありましたら、1枚の付箋に1つずつ、メモしながらご覧ください。 |
| 14:00  ～24:30 | アニメーションの視聴 | 心のバリアフリーについて学ぼう～メッセージ編～  約10分30秒 |
| 24:30  ～26:30  26:30  ～28:30  28:30  ～38:30 | ディスカッションの方法  付箋への書き出し  （２分）  ディスカッション①  （１０分） | 皆さん、いかがでしたか？  多様な人たちと、違いを超えてコミュニケーションをとることで拓ける可能性、コミュニケーションのポイント等、色々な気づきがあったのではないでしょうか。  これから、グループディスカッションをしていきたいと思いますが、その前に、短い時間で議論をいただくための方法のご説明です。  各テーブルにディスカッション方法のメモをおいていますので、ご覧いただきながらお聞きください。※配付資料２：グループディスカッションの進め方を配布しておく。  各グループにファシリテーターをおいています。  （グループ名とファシリテーターの名前を紹介）  グループディスカッションはファシリテーターの進行で進めていきます。   1. まず、議論するテーマについて、それぞれの感想や意見をお配りしている付箋に思いつくだけ書いてください。１枚の付箋に１つの感想や意見をお願いします。先ほどのように動画を見ながら書いていただいた上で、別途3分程の時間も設けます。 2. 次に、順番に、感想や意見を言いながら、付箋を白紙に貼っていってください。 3. この時、ご自分が書いたものに近い付箋が出されたら、その近くにご自分の附箋も貼ってください。 4. すべての付箋が貼られたら、出てきた意見・感想を更に深めるディスカッションをしていきましょう。やり取りの中で、新しい気付きや意見が出てきたら、ファシリテーターは白紙に直接書き加えていってください。   なお議論は、気付きを深めていただくためのものですので、何か一つの答えにまとめる必要はありません。自由に発言いただければと思います。  それでは、「動画から気づいたことや、印象に残ったこと」について、先ほどアニメーションを見ながらメモをしていただきましたが、追加で思いつくことを付箋に書き出していってください。2分でお声掛けいたします。  それでは時間になりました。  グループディスカッションを始めましょう。  「動画から気づいたことや、印象に残ったこと」について、皆さんで出し合って、更に深めていただきたいと思います。  ファシリテーターの皆さん、１０分でよろしくお願いします。  それでは時間になりました。  いろいろな意見が出ておられましたね。  続けて、これから3つのテーマでディスカッションをいただきたいと思います。  ご覧いただくのは、  「○○」、「○○」、「「障害」とはなんだろう」です。  ※　ニーズに応じて、以下５つのテーマから視聴する動画を２つ選択してください。動画ごとに進行が異なります。 |
| 38:30  ～58:30 | アニメーションの視聴  ＋ディスカッション②③  （10分×２） | 【声かけが必要なのはどんなとき】  　まず、「声かけが必要なのはどんなとき」をご覧いただきます。その後、どのような時に、どのような方に対して声をかけたらよいかについて、具体的な場面を含めてディスカッションをしたいと思います。気付きをメモしながらご覧ください。  アニメーションの視聴～約2分10秒～  アニメーションでは、信号で視覚障害のある人を見かけた時に声かけをしていました。この他にも、段差で困っている車いすの方など、声かけをするとよい場面が色々あると思います。  視覚障害者にかぎらず、どのような時に、どのような方に対して声をかけたらよいか、ご自身のお考えを付箋に書き出してください。3分でお声掛けします。  付箋に考えを書き出す作業～2分～  　それでは時間になりましたので、ディスカッションを始めましょう。ファシリテーターの皆さん、よろしくお願いします。  ディスカッション～5分～ |
|  |  | 【困っていることに気付いたら①～適切な距離を保って相手の求めに沿った手助けをしましょう～】  まず（次に）、「困っていることに気付いたら～適切な距離を保って相手の求めに沿った手助けをしましょう」をご覧いただき、その後、街中で手助けが求められる場面とその対応について、具体的な場面を含めてディスカッションをしたいと思います。気付きをメモしながらご覧ください。  アニメーションの視聴～約1分30秒～  では、ディスカッションに先立って、「街中で手助けが求められる場面とその対応」について、皆さん自身がしてほしいと思うことや、こんな状況の人はこんな手助けを求めているんじゃないかなど、皆さん自身の経験、周りで見たり聞いたりしたことや考えられることを、付箋に書き出してください。2分でお声掛けします。  付箋に考えを書き出す作業～2分～  　それでは時間になりましたので、ディスカッションを始めましょう。ファシリテーターの皆さん、よろしくお願いします。  ディスカッション～5分～ |
| 【困っていることに気付いたら②～見た目で判断せず要望を聞いてみよう～】  まず（次に）、「困っていることに気付いたら～見た目で判断せず要望を聞いてみよう」をご覧いただき、その後、一方的な決めつけや先入観をもって人に対応してしまったことについて、皆さん自身の経験、周りで見たり聞いたりしたことや考えられることを、具体的な場面を含めて出し合ってみたいと思います。気付きをメモしながらご覧ください。  アニメーションの視聴～約1分40秒～  では、ディスカッションに先立って、「一方的な決めつけや先入観をもって人に対応してしまったこと」について、皆さん自身の経験、周りで見たり聞いたりしたことや考えられることを、付箋に書き出してください。3分でお声掛けします。  付箋に考えを書き出す作業～2分～  それでは時間になりましたので、ディスカッションを始めましょう。ファシリテーターの皆さん、よろしくお願いします。  ディスカッション～5分～ |
| 【コミュニケーションの取り方が分からないときは】  まず（次に）、「コミュニケーションの取り方が分からないときは」をご覧いただき、その後、「コミュニケーションをとることが難しい場合はどんな時？どんな対応ができるだろう？」について、具体的な場面を含めてディスカッションをしたいと思います。気付きをメモしながらご覧ください。  アニメーションの視聴～約２分～  では、ディスカッションに先立って、「コミュニケーションをとることが難しい場合はどんな時？どんな対応ができるだろう？」について、皆さん自身の経験、周りで見たり聞いたりしたことや考えられることを、付箋に書き出してください。2分でお声掛けします。  付箋に考えを書き出す作業～2分～  それでは時間になりましたので、ディスカッションを始めましょう。ファシリテーターの皆さん、よろしくお願いします。  ディスカッション～5分～  ここで、困っていそうな聴覚障害がある人に、声をかける便利な手話をご紹介したいと思います。  ※　配付資料４：手話解説イメージを配布しておく  「大丈夫ですか？お手伝いしましょうか？」  ※　ゆっくり手話を示す。  「大丈夫」は、まず、右手の指先を湾曲させます。その手を左胸にあて、そのままの形で右胸に移動させます。  「ですか？」は、右手のひらを上に向けて、弧を描くように出します。  （「大丈夫ですか？」を続けて手話でやってみる。）  「お手伝い」は、左手の立てた親指の背に右手のひらをあてます。右手のひらで、左手の立てた親指を前に押し出すように２回たたきます。  「しましょうか？」は、「ですか？」と同じです。  （「お手伝いしましょうか？」や通しで手話をやってみる。）  簡単な手話なので覚えやすいですね。  手話で声かけをした後は、筆談をしたり、アニメーションにもあったようにスマートホンのメモ機能を使う、ジェスチャーや表情、声を出さずに口の動きをゆっくり、はっきりさせながら見せる等、その時の状況に応じて実践してみましょう。 |
| 【見慣れない状況に出会ったら】  まず(次に)、「見慣れない状況に出会ったら」をご覧いただき、その後、見慣れない状況としてどんな場面がある？その時、どうすればいいか？について、具体的な場面を含めてディスカッションをしたいと思います。気付きをメモしながらご覧ください。  アニメーションの視聴～約1分30秒～  ではディスカッションに先立って、「見慣れない状況としてどんな場面がある？その時、どうすればいいか？」について、皆さん自身の経験、周りで見たり聞いたりしたことや考えられることを、付箋に書き出してください。3分でお声掛けします。  付箋に考えを書き出す作業～2分～  それでは時間になりましたので、ディスカッションを始めましょう。ファシリテーターの皆さん、よろしくお願いします。  ディスカッション～5分～ |
|  |
| 58:30  ～73:30 | アニメーションの視聴  ＋ディスカッション④  （15分） | それでは時間になりました。  いろいろな意見が出ておられましたね。  発表は最後にいただきますので、3つ目のテーマ「「障害」とは何だろう」をご覧いただきます。  アニメーションの中にある、  ・「バリア」は何か、  ・困りごとを生み出しているものは何か、  を探して、メモをしながらご覧ください。  アニメーションの視聴～約3分～  では、ディスカッションに先立って、「バリア」とは何か、困りごとを生み出しているものは何かを、付箋に書き出してください。3分でお声掛けします。  付箋に考えを書き出す作業～2分～  それでは時間になりましたので、ディスカッションを始めましょう。ディスカッションでは、これまで見たアニメーションや先ほどの議論にも立ち返っていただくとよいと思います。  また、この後、グループ発表になりますので、発表者の方は、心づもりもお願いします。お時間は、10分を予定しています。  ディスカッション～10分～ |
| 73:30  ～85:30 | 発表  3分×４G  （12分） | それでは、時間になりました。各グループとも、議論が尽きないようですが切り上げていただきまして、グループ発表をお願いしたいと思います。  各グループ3分ずつで、これまでの議論でどんな意見があったか、全体を通じて心のバリアフリーについての気づきや感想などを発表いただきたいと思います。それでは○グループからお願いします。  発表　～3分×４G～ |
| 85:30  ～90:00 | まとめ  固定観念を捨て、「障害」の捉え方を転換してみよう  障害＝個人の心身機能の障害によるもの  障害＝社会（モノ、環境、人的環境等）と心身機能の障害があいまって作り出されているもの  心のバリアフリーは、異なる人の間で相互理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うこと  共生社会の実現に向け、一人一人ができることを行動していこう | ありがとうございます。  （各グループ発表の共通点や特徴等に簡潔に触れる）  「心のバリアフリー」の第一歩は、誰もの心の中にある「心のバリア」に気づくことです。  「心のバリア」とは、固定観念であったり、自分と異なる特性を持った人がいることに想像力が働かなくなっていたり、そうした人たちは特殊な存在だと思い込んだりすることです。  障害のある人の困りごとは、その人の心身の機能に障害があるから起こっていると思われがちですが、これも固定観念です。  アニメーションの中で、「障害者」は、「社会が作ったバリアによって、困りごとを多く経験している」というナレーションがありましたね。  「社会が作ったバリア」とはどういうことでしょうか？  　あなたが、けがで歩けなくなったと想像してみてください。歩けないけど、車いすを使えば、自分で行きたいところに移動することができます。でも、段差や狭い入口などで困ってしまう。  あなたの困りごとは、段差や狭い入口のように、障害のない人の都合や便利さに合わせて作られた周りの環境や仕組みから生まれているのではないでしょうか？  このように、「障害」の捉え方を、「個人の心身の機能の障害によって生まれるもの」という見方から、「モノや環境、人の考え方等の社会の在り方と個人の心身の機能があいまって生まれるもの」という捉え方に変えてみると、物事の見え方やアプローチが変わってきます。  今日は、障害のある人を中心に心のバリアを考えてきましたが、相手は、言葉や文化が違う外国人など、多様な特性を持った人たちにも当てはまります。  国は、「ユニバーサルデザイン2020行動計画」の中で、「心のバリアフリー」とは、「様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合う」ことと位置づけています。  異なる心身の特性や考え方の人同士が、理解を深め合うためには、先入観や固定観念を捨てて、まずはコミュニケーションを取ることが重要です。  外国語に自信がない、障害のある人にどう接したらいいのかな…等、色々考えてしまうとハードルが高くなりますよね。  まずは相手が困っていそうな場面で、「お手伝いしましょうか」と声を掛けることからでもよいと思います。声を掛け合う輪が広がって、それがきっかけでコミュニケーションが増え、少しずつお互いの理解が深まって、支え合いの関係が育まれていく。  こんなふうに発展させていけると素晴らしいですね。  2020年東京大会をきっかけに、多様な人々が暮らしやすいようあらかじめデザインされた社会、共生社会を実現するために（※）、一人一人ができることはたくさんありそうです。  ※　企業研修の場合は、以下を追加してご紹介ください。  「企業人の立場からは、最後のアニメーションにもあったように、障害者差別解消法のコンプライアンスとしてもしっかり取り組んでいく必要がありますし、個人でも」。  是非、これからも、皆さんには、何ができそうかを考えていっていただきたいと思います。そして実際に行動に移してみてください。  お手元に、「わたしの行動宣言」をお配りしています。  よろしければ、今日これからやること、1年後の目標を書き込んでみてください。そして、今日から取り組んだことを記録としてつけていってみてください。  ここに集まった皆さん一人一人が、新しい変革を生み出す人だと思います。  新しい一歩に今日の研修（勉強会）がなれれば大変嬉しいです。  なお、今日ご紹介できなかったアニメーション教材がまだございます。インターネット上に無料で公開されていますので、セルフワークとしてご覧いただければ幸いです。URLはお手元の資料をご参照ください。※配付資料３：アニメーション教材のURL案内を配布しておく  どうもありがとうございました。 |